

こうざ えもんつうしん 講左衛門通信

平成28年10月23日

第75号

発行 天台宗忍草山東円寺

〒401-0511

南都留郡忍野村忍草38

☎ 0555-84-4114

『今日は、地獄と極楽の話でまっすん。おいらは考え過ぎているかもしれないけれど、なぜ、極楽と地獄ではないでまっすん？講左衛門さん、理由があるでまっすん？』

『さすが、クニマッスンじゃな。良い質問じゃ。しかし、説明するには、とても難しい質問じゃ。クニマッスン、善悪について深く考えてほしいんじゃよ。わしらは、生きるために様々な命を奪って生きておることは分かっておるな。さて、善悪で考えたらどちらかのう。』

『むっ難しい質問でまっすん。おいらは、生きるために小さな魚の命をもらっているけど、それは命をつなぐためには仕方ないことでまっすん。善悪で考えたら善でまっすん。』

『そのように答える人が多いじゃろう。しかし、仏様は、命を奪ってはいけないと言っておるんじゃ。どのような理由でも、命を奪うと罰を受けなければならん。まず、地獄と極楽について、きちんと説明することができた方の話をしようかのう。恵心僧都源信という天台宗のお坊さんがいたんじゃ。源信は、今年6月10日に亡くなられて、1200年になるんじゃよ。源信によって、この世に地獄と極楽があるということが、一般庶民に伝わり、現在に繋がっているんじゃ。源信は、985年に「往生要集」という著書を完成させたんじゃ。これによって、平安時代の文学にも大きな影響を与えていてな、紫式部が書いた「源氏物語」には、「横川の僧都」として、また、清少納言の「枕草子」にも登場しているんじゃよ。』

『源信さんと言えば、念仏法語（横川法語）を書かれた人でまっすん。「夫れ一切衆生三悪道を逃れて人間に生まるること大いなる喜びなり・・・」と説かれた人でまっすん？』

『そうじゃ。良く覚えておるな。現在、地獄と極楽が一对として考えられるようになったのも、源信の「往生要集」によるものなんじゃ。仏様の教えの中から取り出して、詳しく説明されているんじゃよ。特に、極楽よりも、地獄の描写が有名なんじゃ。しかし、源信の地獄の話の前に、「賽の河原」の話しようと思っておるんじゃ。源信が影響を受けた和尚さんに、空也上人という人がいたんじゃよ。歴史の教科書には、必ず載っている、口から出た一本の細い針金のようなものに、阿弥陀様のお像が6体並んでいる方じゃ。この方は、「南無阿弥陀仏」と唱えて全国を歩かれたんじゃが、その時目にした悲惨な光景を詩に残しておるんじゃ。この詩は、「賽の河原地蔵菩薩」という和讃になっているんじゃが、忘れてはいけない、様々な歴史が詰まっているんじゃよ。地獄の中でも、一番可愛そうな話なんじゃよ。日本にお地蔵様が多い理由の一つでもあるぞ。』

『では、今回は、「賽の河原」の話でまっすん。悲しい話だけれど、しっかり話を聞くでまっすん。』

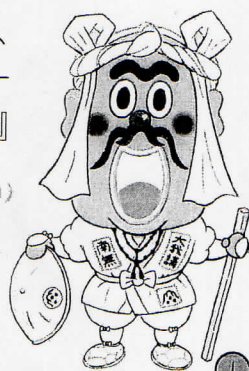
『そうじゃな。昔話と思わず、聞いてほしいのう・・・』

クニマッスン

出生地 忍野村

山梨県水産技術センター

口癖 でまっすん・・・



ふじのだいがこうざ えもん 年齢不詳
富士大我講左衛門

職業 大我講の先達

(先達とは案内責任者)

『講左衛門通信』は、
第2・第4日曜日に発行予定

講左衛門通信は、東円寺 HP にて
バックナンバーをご覧いただけます